

は し が き

鹿児島県は、全国第3位の長い海岸線と南北600Kmに展開する広大な海域及び黒潮本流域を有することなどから、本県海域に生息する魚介藻類は、温帯域から亜熱帯域にかけて分布するもののほか、回遊性や深海性のもの等多種多様で、2,500種以上が生息するといわれており、魚類市場に水揚げされ、食用に供される種類も200種（魚類150種、貝類20種、水産動物30種、海藻類10種）を超えるものと推定されています。

県本土は、鹿児島湾を包むように薩摩半島と大隅半島に分かれ、種子島、屋久島、奄美大島、甌島等の離島も多く、また、地形変化に富み、各々の地域の歴史や文化背景等も異なることから、魚介藻類の呼び方の言い回しやアクセント、呼び方の意味合い等が地域によって相違があり、魚介藻類を理解するうえで障害の一つとなっていました。

このため、県内に分布する魚介藻類の方言と標準名（和名）が簡単にわかるような冊子が研究者や漁業関係者のみならず、一般の方々からも多く望まれていたところでした。

この「鹿児島県魚介藻類方言集」は、最近の海洋開発機運の高揚等に伴い、都市と漁村との交流が今後ますます必要になってくる状況を踏まえ、鹿児島県に分布する魚介藻類や漁村への理解をさらに深めてもらうために、今回「第7回全国豊かな海づくり大会」の開催に関連して行った沿岸・沖合域総合整備開発条件調査検討事業の一環として編集したものです。

本書が、多くの方々に利用され、水産業への認識がさらに深まるとともに都市と漁村の交流の一助となれば幸いです。

昭和63年3月

鹿児島県林務水産部長 萩之内 照 雄

本書に収録されている魚介藻類の種類数

区 分		種 類 数
魚 類		282
水 産 動 物	エ ビ 類	34
	カ ニ 類	28
	そ の 他 水 産 動 物	61
	計	123
貝 類		115
海 藻 類		115
合 計		635

— 目 次 —

I 本書の使い方

- 1 本書に出てくる鹿児島県内の地域区分及び漁業地区名 1
- 2 方言名調査に当って利用した図鑑 1

II 鹿児島県の地域別魚介藻類方言名

- 1 魚 類 2
 - 2 水産動物 74
 - (1) エビ類 74
 - (2) カニ類 84
 - (3) その他水産動物 92
 - 3 貝 類 108
 - 4 海 藻 類 138
- III 索 引 168

【 本 書 の 使 い 方 】

本書は、鹿児島県に生息する主な魚介藻類635種の方言名について、昭和62年に調査したものをとりまとめたもので、収録されている魚介藻類の方言名は淡水産の魚種も含め約5,200です。

各地区の方言名と標準名が比較できるように、県内を8地域に区分し、各々の地域の3～5漁業地区、計43地区の方言名を標準名との比較表にし、とりまとめてあります。

また、誰でも手軽に利用できるように、標準名は「ひらがな」、方言名は「カタカナ」で表示してあります。

なお、漁業地区は現在あるいは旧漁業協同組合の管内地区です。

今回は魚介藻類の写真は掲載していませんが、調査に利用した次の図鑑を参考にさせていただきたいと思います。

本書の168ページ以降には、標準名でも方言名でもいずれからでも魚介藻類の名称が調べられるように、標準名と方言名の混合の索引を付けてあります。

本書に出てくる地域区分と漁業地区は次の通りです。

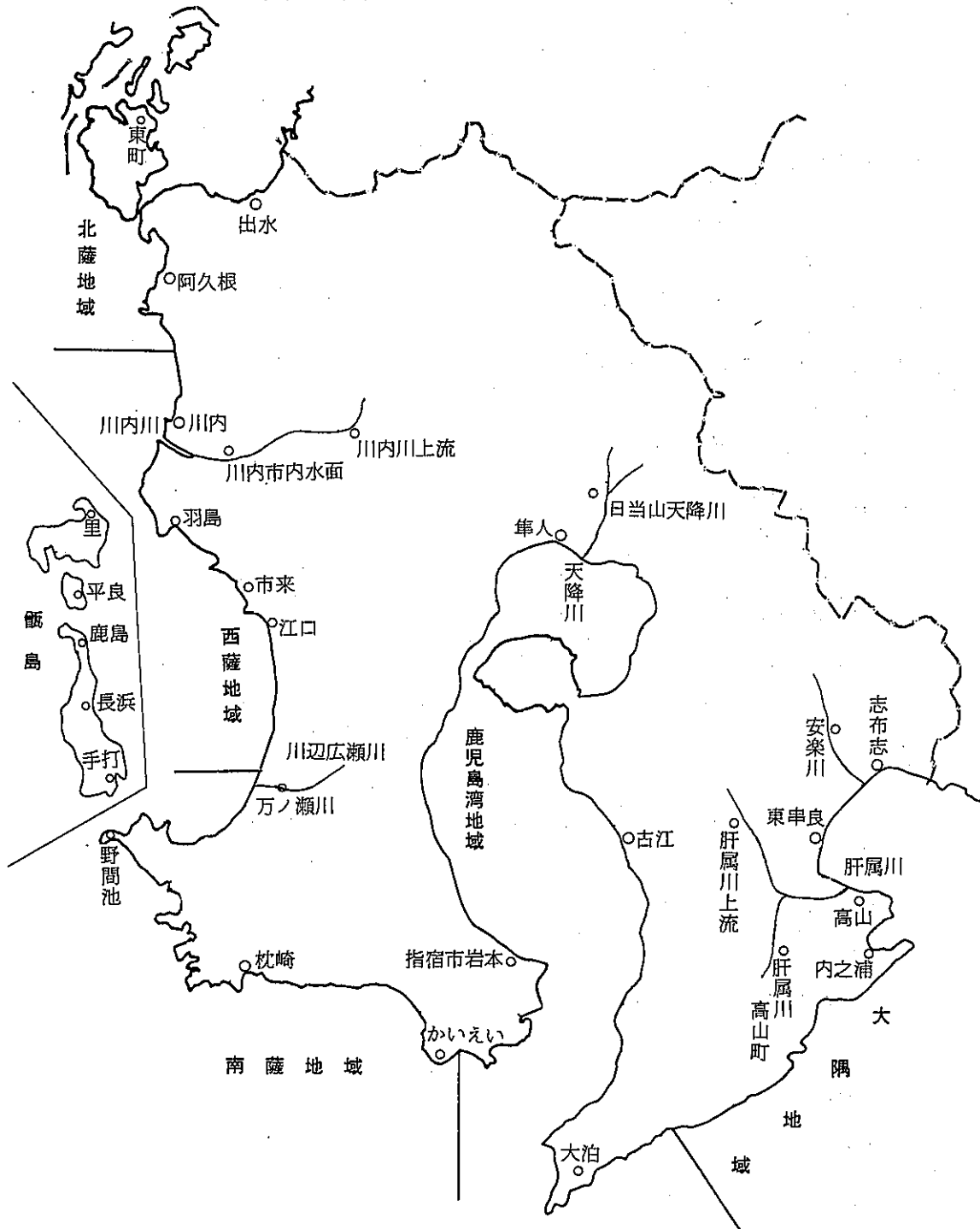
1 本書に出てくる鹿児島県内の地域区分及び漁業地区名

地 域 区 分	漁 業 地 区 名 (略 語)	
北 薩 地 域	出水(出), 阿久根(阿), 東町(東)	
西 薩 地 域	川内(川), 市来(市), 江口(江), 羽島(羽), 川内川上流(川内上), 川内市内水面(川内内水)	
甌 島	里(里), 平良(平), 鹿島(カ), 長浜(ナ), 手打(手)	
南 薩 地 域	野間池(野), 枕崎(枕), かいえい(開), 川辺広瀬川(万)	
鹿 児 島 湾 域	指宿市岩本(指), 隼人(隼), 古江(鹿), 大泊(大泊), 日当山天降川(天降)	
大 隅 地 域	内之浦(内), 高山(高), 東串良(東), 志布志(志), 安楽川(安), 肝属川上流(肝上) 肝属川高山町(肝属)	
熊 毛 地 域	種 子 島	西之表(西), 島間(島), 熊野(熊), 浦田(浦)
	屋 久 島	一湊(一), 宮之浦(宮), 安房(安), 栗生(栗)
奄 美 地 域	名瀬(名), 瀬戸内(瀬), 徳之島(徳), 沖永良部島(沖), 与論島(与)	
8 地 域	4 3 地 区	

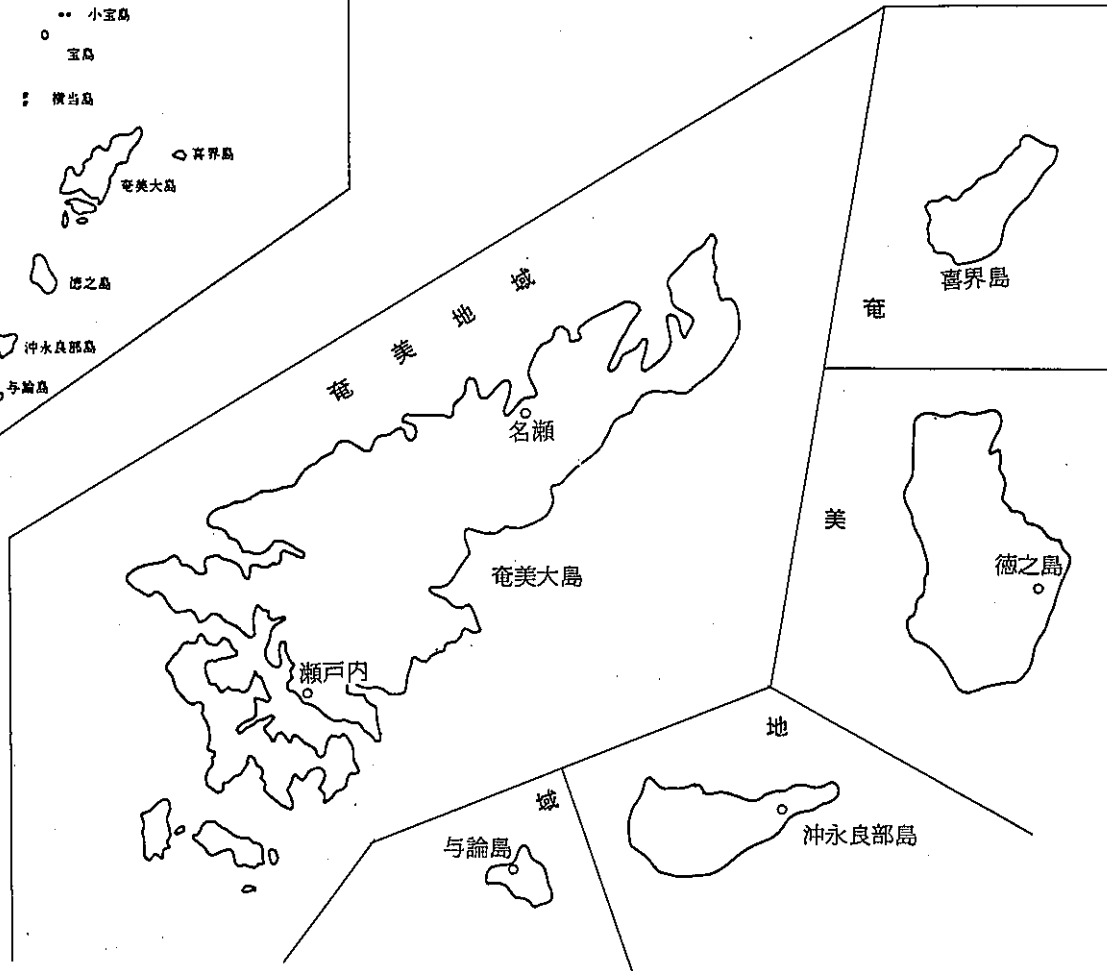
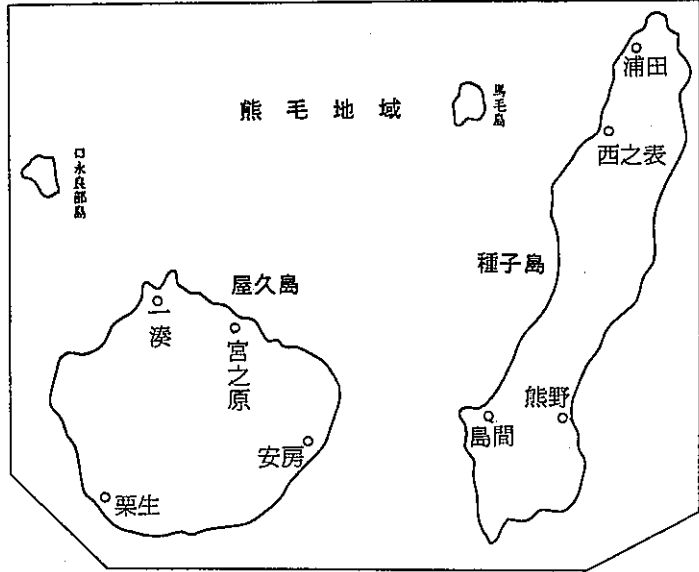
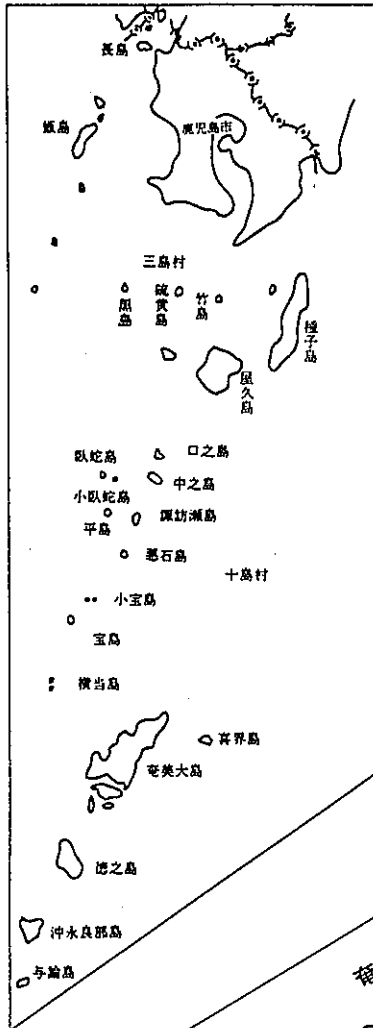
2 方言名調査に当って利用した図鑑

- ・ 原色魚類検索図鑑〔北隆館〕
- ・ 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅰ)〔保育社〕
- ・ 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ)〔保育社〕
- ・ 原色日本海岸動物図鑑〔保育社〕
- ・ 原色日本貝類図鑑〔保育社〕
- ・ 原色日本海藻図鑑〔保育社〕

本書に出てくる地域区分及び漁業地区



位置図



鹿兒島県魚介藻類方言集編集委員会

企 画 委 員 鹿兒島県林務水産部長 萩之内 照 雄
 同 次長 東 郷 庄三郎
 林務水産課長 富 山 新 八
 水産振興課長 山 下 耕 平
 水産試験場長 西 原 拓 夫

企 画 ・ 編 集 鹿兒島県林務水産部
 林務水産課 茂 利 敦 雄, 山 下 喬, 前 田 一 己
 新 川 博 俊, 上 加 世 田 純 一, 吉 野 純 一
 柳 原 重 臣
 水産振興課 小 松 光 男, 中 間 健 一 郎, 瀬 戸 山 公 義
 大 木 三 男
 水産試験場漁業部 徳 留 陽 一 郎, 鶴 田 和 弘
 生物部 新 村 巖, 溝 口 裕 代

方 言 名 調 査 者

鹿兒島水産業改良普及所 下 窪 諭, 内 藤 康 文, 矢 野 浩 一
 上 屋 久 町 駐 在 折 田 和 三
 南 薩 水 産 業 改 良 普 及 所 田 畑 陸 雄, 中 村 俊 郎, 佐 野 悦 郎
 西 薩 水 産 業 改 良 普 及 所 塩 満 暁 洋, 塩 浦 喜 久 雄
 上 甕 村 駐 在 北 上 一 男
 北 薩 水 産 業 改 良 普 及 所 宮 内 昭 吾, 古 賀 吾 一, 江 夏 竜 郎
 大 隅 水 産 業 改 良 普 及 所 水 野 豊, 平 原 隆, 井 上 慶 幸
 奄 美 水 産 業 改 良 普 及 所 前 田 和 宏, 織 田 康 平
 瀬 戸 内 町 駐 在 原 田 彰 久
 熊 毛 支 庁 農 林 水 産 課 新 谷 寛 治, 小 湊 幸 彦
 大 島 支 庁 商 工 水 産 課 松 本 幹, 西 野 博
 水 産 振 興 課 栽 培 養 殖 係 安 元 茂 樹, 上 野 剛 司

あ と が き

本書に収録されている方言名のほとんどは、鹿児島県の各水産業改良普及所、熊毛支庁農林水産課、大島支庁商工水産課が各種図鑑を利用して、漁業者や漁業協同組合の職員等から直接聴きとり調査したものです。淡水産の魚介類の一部は関係漁業協同組合に文書で照会し、また、与論島については、与論町中央公民館長の光才池さんが調査されたものを本人の御了解のもとで利用させていただきました。

各地区の魚介藻類の呼び方には、独特の言い回しやアクセント等があって、如実に記述できなかったものもあり、また時間的制限等から調査地区も主な漁業地区に限定され、完全な方言集とは言えませんが、県内全域を対象に収録された魚介藻類の方言集は今回が初めてであり、その意味では利用者の参考になることも多いものと考えています。

本書を初版として、今後、訂正・加筆を加えながら、魚介藻類の写真も織り込んだ形の「図鑑入り方言集」の発刊についても、今後検討していきたいと考えています。

本書を利用される皆様の御意見、御教示等をいただければ望外の喜びです。

最後に、本書を作成するに当たり、調査資料の利用を快諾いただいた光さんをはじめ、方言の収集に御協力を賜った漁業者や漁業協同組合の皆様及び収集、整理に携わっていただいた関係者に対し、深く感謝申し上げます。

鹿児島県魚介藻類方言集編集委員会

(補記)

連絡先 〒892 鹿児島市山下町14-50
鹿児島県林務水産部林務水産課
同 水産振興課